

平成 24 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

平成 24 年 11 月 30 日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成 24 年度中間業績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や公共投資に支えられ、緩やかな回復傾向が見られた一方で、欧州債務問題の深刻化や中国経済の減速、長引く円高等の影響により、先行きが不透明なまま推移いたしました。

放送広告においても、第 1 四半期までは震災の影響を受けた前年実績からの回復が顕著であったものの、経済情勢の先行きに対する懸念が強まった夏以降は、クライアントの間に広告出稿に対して慎重な姿勢が目立つこととなり、急速に停滞感が広まりました。

このような状況の中、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は 88 億 8 千 5 百万円（前年同期比 1.0%増）、営業利益は 6 億 3 千万円（前年同期比 31.6%増）、経常利益は 7 億 8 百万円（前年同期比 60.0%増）、中間純利益は 4 億 2 千 1 百万円（前年同期比 111.7%増）となりました。

当社単体の業績につきましては、クライアントの業種拡大に引き続き取り組んだ結果、主力の放送事業が全社の業績を牽引する結果となり、売上高が 69 億 6 千 4 百万円（前年同期比 4.3%増）、営業利益は 5 億 4 千 5 百万円（前年同期比 14.9%増）、経常利益は 6 億 8 千 3 百万円（前年同期比 30.6%増）、中間純利益は 4 億 4 千 4 百万円（前年同期比 53.4%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下のとおりです。

<放送事業活動>

震災以降、当社はメディアとしての公共的な使命を果たすことに邁進するとともに、当社理念である「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の実践を放送活動の基軸とし、当中間連結会計期間においても聴取者から共感をいただいている「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」に継続して取り組みました。

震災からちょうど 1 年目の震災発生同時刻にあたるレギュラー番組「山下達郎のサンデー・ソングブック」（日曜 14:00～14:55 全国 38 局ネット）では、その日の放送を追悼と復興祈念番組と位置づけ、鎮魂の想いを凝縮した山下達郎氏の言葉と選び抜かれた音楽により構成。番組終了後、全国のリスナーからメール、ツイッター等での感動の声が集中しました。当プログラムは 5 月に発表された「第 38 回放送文化基金賞」で優秀賞を受賞、さらにパーソナリティ山下達郎氏は出演者賞を受賞しました。また、「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55 金曜 22:00～22:55 全国 38 局ネット）では、原発事故により避難を余儀なくされていた福島県南相馬市の高校生からの番組宛メッセージをきっかけに、日本各地の避難先で暮らす卒業生たちに番組から呼びかけ、1 年後の卒業式を実現。全国にばらばらになってしまっていた卒業生たちが再び南相馬で再会した感動を捉えて放送した「もうひとつの卒業式」（3 月 8 日放送）が「第 49 回ギャラクシー賞」ラジオ部門に入賞しました。さらに、被災地の人々の心とからだのケアのため、医療チーム、子供のための読み聞かせチームなどを継続的に現地に派遣してきたレギュラー番組「LOVE & HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト～」（月～金曜 6:30～6:40 全国 38 局ネット）も、ギャラクシー賞報道活動部門「奨励賞」を受賞しました。

世界を感動させたロンドンオリンピック開催期間においては、連日、日本人選手の活躍を中心とした速報体制を組み、特に男女サッカーについては決勝トーナメント以降の日本戦実

況中継を実施しました。また、平日午前ワイド「Blue Ocean」（月～金曜 8:30～11:00）では、7月30日からの5日間、パーソナリティ住吉美紀が現地からの中継を行い、注目競技や選手をめぐる新情報、知られざるロンドンの素顔など臨場感溢れる生放送を実施しました。

また、夏休みスペシャル企画として「SCHOOL OF LOCK!」では、地上400kmのISS（国際宇宙ステーション）に長期滞在中の宇宙飛行士 星出彰彦氏を出演者に迎え、リスナーからの質問やメッセージに答えていく「特別授業」を実施。当企画は、日ごろ TOKYO FM リスナーである星出氏からの「宇宙ステーション滞在中に聴くための番組をいくつか送ってほしい」という要望がきっかけとなり実現しました。

また、新たな若者リスナー獲得のために取り組んだ4月改編では、上戸彩、武井咲、剛力彩芽、山下智久など旬なタレントたちをパーソナリティに配しました。ビデオリサーチ調査では、12～59歳男女リーチNo.1の記録を継続中です。

若者の未来へエールを送る企画の充実を常に目指す中、9月に南アフリカで開催された世界最長距離5,000kmを走破するソーラーカーレース「サソール・ソーラーチャレンジ」（9月17日～28日）に当社プロデューサーを派遣、3連覇を目指す東海大学チームの熱いチャレンジを、全国ネット番組やfacebookで連日レポート、日本の若者たちが夢に立ち向かう情熱と苦闘の姿を伝えました。

朝の情報ワイド番組「クロノス」（月～金曜 6:00～8:30）内のレギュラーコーナー「Honda Smile Mission」（月～金曜 8:10～8:17 全国36局ネット）では、AI（人工知能）を搭載し「自らの意思でしゃべる車 プチエコ」を開発、全国を走行中です。「プチエコ」は、人の言葉から得た情報を知識として蓄積しながらより賢くなっていく機能を持っており、そのかわいらしい風貌で全国各地の人々とふれあい、番組レポートで活躍、番組のフィールド展開の象徴的なケースとしても話題になっています。

当社はIPサイマル配信を単なる難聴取対策としてだけでなく、通信・放送融合時代の消費者のニーズに応える「新たな聴取スタイル」を開拓するサービスとして位置づけ、積極的に取り組んでおります。従前からの「radiko」、「LISMO WAVE」への参画に加え、昨年12月には当社自身が事業主体となって「ドコデモFM」をスタートさせ、順次機能強化を継続、現在では全てのキャリアのandroid端末と、iPhoneに対応した結果、国内のほぼ全てのスマートフォンで「ドコデモFM」のサービスが受けられるようになっております。

また「V-Low マルチメディア放送」に関して総務省は、制度整備の検討にあたっては「実証実験」を踏まえるものとし、昨年11月に実験計画の提出を広く求めました。当社が出資する九州・沖縄マルチメディア放送株式会社がこれに応じて福岡県域における実証実験計画を同年12月に提出、本年7月には実験試験局の予備免許を取得し実証実験放送を開始しました。本年度下期には、中央の企業のみならず地元企業や大学、行政の連合体も巻き込んで実証実験を重ね、平成25年度にもスタートすると想定されている本放送に向け、新しいビジネスモデルの構築ならびにコンテンツの開発を推進してまいります。

<企画・制作事業活動>

「アースコンシャス～地球を愛し感じるこころ」をテーマとして毎年実施しているアースデーコンサートは、今年は4月15日（日）さいたまスーパーアリーナにおいて「EARTH×HEART LIVE 2012」と銘打ち、開催しました。フィッシュマンズとサカナクションという2大バンドの共演による当ライブの様子は、JFN38局のみならず6ヶ国語により海外で放送されたほか、Ustreamでも世界へ配信されました。また会場および番組やWEBなどを通じて募金を呼びかけ、JFNアース&ヒューマンコンシャス募金を通じて被災地の沿岸部の復興のためにWWFジャパン「暮らしと自然の復興プロジェクト」へ寄付しました。

8月には、日本初公開となる、映像とフルオーケストラによる「スターウォーズ・コンサート」来日公演を開催、今なお根強いスターウォーズファンが多数来場しました。海外アー

ティストでは、ビーチボーイズ再結成ツアー、話題の歌姫シェネルの初来日公演、天使の歌声を持つジャッキー・エバンコを招聘するなど洋楽ファンの期待にも応えました。

さらに、グリーン・デイ、リアーナ、ジャミロクワイ、ももいろクローバーZなど、国内外の人気アーティストが参加した「SUMMER SONIC 2012」では、3日間で約13万5千人を動員。また、人気ミュージシャンを毎年輩出している「SCHOOL OF LOCK!」発10代ミュージシャン限定のロックイベント「閃光ライオット」は、5周年を迎えました。今年も1万組を超える出場応募バンドの中から、各地の予選を勝ち抜いた若手バンドたちによる決勝大会を日比谷野外音楽堂で開催し、若者たちを熱狂させました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の一環として2010年から展開している「HelloSmile（子宮頸がん予防啓発プロジェクト）」では、4月に「HelloSmile Live 2012」を実施、プロジェクトに賛同した人気タレントベッキーが予防啓発を呼びかけました。5月には、世界の女性の健康と生命の問題に取り組む「国連人口基金（UNFPA）」とのグローバルパートナーシップ締結について、ニューヨークで世界に向けて発表、多くのメディアで取り上げられました。

また、映画事業においては共同製作作品「宇宙兄弟」、「あなたへ」が公開され多くの共感を獲得しました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、携帯電話をめぐる事業環境の変化に対応するため、スマートフォン向けアプリやソーシャルゲーム（ソーシャル・ネットワーク・サービス上で展開されるゲーム）開発の強化等の施策に引き続き取り組みました。人気スナック菓子をゲーム化したアプリ「うまい棒をつくろう!」は、iPhone版に続きandroid版もリリース、累計ダウンロード数が150万を超え広告収益モデルを確立しました。この他、企業の販売促進用アプリの開発受託、モバイル・PC向けホームページの受託制作等のソリューションビジネスでも積極的な事業展開を行いました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「メディアセンター」、「JFNセンター」等の賃貸事業を展開しました。

<その他の事業活動>

本社および賃貸用オフィスビル内の直営2店舗によるレストラン事業等を展開いたしました。なお、本社ビル内の会員制レストラン「ジェットストリーム」については7月に改装等を行いリニューアルいたしました。

以上

前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成24年4月1日～平成24年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成25年3月期中間期 (H24. 4. 1～H24. 9. 30)	平成24年3月期中間期 (H23. 4. 1～H23. 9. 30)	前年同期比
売上高	8,885,593	8,799,972	101.0%
売上原価	5,683,960	5,674,424	100.2%
売上総利益	3,201,632	3,125,548	102.4%
販売費及び一般管理費	2,570,858	2,646,114	97.2%
（内のれん償却額）	64,161	64,161	100.0%
営業利益	630,774	479,433	131.6%
（売上高営業利益率）	7.1%	5.4%	
営業外収益	116,773	53,223	219.4%
営業外費用	39,489	90,128	43.8%
経常利益	708,057	442,528	160.0%
（売上高経常利益率）	8.0%	5.0%	
特別利益	—	5,428	—
特別損失	2,458	26,155	9.4%
税金等調整前中間純利益	705,599	421,802	167.3%
法人税、住民税及び事業税	63,165	△ 180,993	—
法人税等調整額	210,287	435,261	48.3%
少数株主損益調整前 中間純利益	432,146	167,533	257.9%
少数株主利益	10,196	△ 31,746	—
中間純利益	421,950	199,280	211.7%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

平成24年4月1日～平成24年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成25年3月期中間期 (H24. 4. 1～H24. 9. 30)	平成24年3月期中間期 (H23. 4. 1～H23. 9. 30)	前年同期比
売上高	6,964,458	6,678,260	104.3%
売上原価	4,552,312	4,387,162	103.8%
売上総利益	2,412,146	2,291,097	105.3%
販売費及び一般管理費	1,866,804	1,816,421	102.8%
営業利益	545,342	474,676	114.9%
（売上高営業利益率）	7.8%	7.1%	
営業外収益	172,349	108,014	159.6%
営業外費用	33,997	59,293	57.3%
経常利益	683,694	523,397	130.6%
（売上高経常利益率）	9.8%	7.8%	
特別損失	1,458	9,159	15.9%
税引前中間純利益	682,235	514,238	132.7%
法人税、住民税及び事業税	50,480	2,570	1964.2%
法人税等調整額	187,609	222,223	84.4%
中間純利益	444,145	289,444	153.4%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

平成24年4月1日～平成24年9月30日

(単位:千円)

	平成25年3月期中間期 (H24.4.1～H24.9.30)	平成24年3月期中間期 (H23.4.1～H23.9.30)	前年同期比
売上高	6,964,458	6,678,260	104.3%
放送事業収入	6,140,779	5,635,816	109.0%
放送収入	3,994,583	3,874,100	103.1%
タイム放送料	2,925,725	2,861,588	102.2%
スポット放送料	1,068,858	1,012,512	105.6%
制作収入	1,019,116	961,780	106.0%
その他	1,127,079	799,935	140.9%
企画事業収入	498,293	708,099	70.4%
賃貸事業収入	278,265	280,335	99.3%
その他事業収入	47,120	54,008	87.2%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

48 期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

48	47 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	4	東急エージェンシー
5	10	マッキャンエリクソン
6	5	ビデオプロモーション
7	-	大日本印刷
8	8	読売エージェンシー
9	17	第一通信社
10	9	オフィスフラッグス

<タイム>

48 期	47 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	4	東急エージェンシー
5	6	読売エージェンシー
6	5	ビデオプロモーション
7	10	第一通信社
8	-	大日本印刷
9	8	オフィスフラッグス
10	7	クオラス

<スポット>

48 期	47 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	7	マッキャンエリクソン
4	3	アサツー ディ・ケイ
5	4	三晃社
6	9	東急エージェンシー
7	6	放送文化事業
8	13	ビデオプロモーション
9	8	毎日広告社
10	-	大日本印刷

平成25年3月期 中間決算短信

平成24年11月30日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 吉田 乾朗 TEL (03)3221-0080

配当支払開始予定日 平成24年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 25年3月期中間期の連結業績 (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期中間期	8,885	1.0	630	31.6	708	60.0	421	111.7
24年3月期中間期	8,799	0.0	479	106.5	442	98.2	199	△ 25.8

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期中間期	470	96	—	—
24年3月期中間期	222	42	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
25年3月期中間期	34,678		25,150		71.7	
24年3月期	35,013		24,856		70.1	

(参考) 自己資本 25年3月期中間期 24,849百万円 24年3月期 24,561百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
24年3月期	30	00	60	00	90	00
25年3月期	60	00				
25年3月期(予想)			60	00	120	00

3. その他

(1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有
- ② ①以外の会計方針の変更 無
- ③ 会計上の見積りの変更 有
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 25年3月期中間期 900,000株 24年3月期 900,000株
- ② 期末自己株式数 25年3月期中間期 4,057株 24年3月期 4,057株
- ③ 期中平均株式数 (中間期) 25年3月期中間期 895,943株 24年3月期中間期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 25年3月期中間期の個別業績 (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期中間期	6,964	4.3	545	14.9	683	30.6	444	53.4
24年3月期中間期	6,678	7.6	474	221.8	523	215.7	289	25.1

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
25年3月期中間期	493	49
24年3月期中間期	321	60

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円			%
25年3月期中間期	33,982		25,744			75.8
24年3月期	34,166		25,433			74.4